

慈雲

26号

2013/3

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る
百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



時有一臣
名曰月光
聰明多智

【『観経』の言葉】

「時^じ有一^{いう}臣^{いっしん} 名曰^{みょうわつ}月光^{がっこう}」

聰明^{そうみょう}多智^{たち}」

時に一^{ひと}の臣あり、名をば
月光と曰う。聰明にして
多智なり。

『八重の桜』をご覧になつていますか。西郷頼母という会津藩の家老が出てきます。京都守護職を買って出た会津藩主に対して、頼母はこれは藩を滅亡へと導くことになるといつて命がけで殿様を諫めます。しかし、藩主は聞き入れず、かえって頼母を国許へ帰し蟄居を命ずるのです。やがて事態は頼母が危惧したようになるのです。

ここでは月光という家が阿闍世王に箴言するところ。どちらも保身の為でなく、家臣としての本分を尽くそうとしています。それは、与えられたもののみならず、責任をもつて務めるということ。

【「正信偈」に学ぶ】④

今回は正信偈の

五劫思惟之摂受

の一句を学びたいと思います。

五劫、これを思惟して摂受す。

と読みます。私たちのご本尊である阿弥陀仏がまだ修行中の法蔵菩薩だった時のことです。師匠仏である世自在王仏の説法を聞いて大菩提心を起こし、悩み苦しむ衆生を救いたいと誓われました。そして、五劫という長い時間を要して考えに考え抜かれてついにその行を撰めとられたというところです。

「五劫」の劫とはインドの数の単位です。これは、四十里（およそ十六キロメートル）四方の大きな岩がありまして、そこへ天女が三年に一度舞い降りて来て、着ている羽衣で岩をさつとひとなでし、その岩が磨り減ってなくなるまでの時間を一劫といいます。五劫はその五倍です。我々の常識では想像もつかないほど長い時間を表わしています。

インド人は数量に関して特別な感覚を持つ民族のようです。実際にはこれは無量ということをおうとしているのです。はかり知れない長い時間をかけて法蔵菩薩はどうしたら衆生を救うことができるかということをおう思惟されたのです。思惟とは考えることです。

※

なぜこれほど長い時間をかけて考えられたのか。衆生を救おうという菩提心を起こされてすぐさま行動に移しても良いように思うのだが、そうされなかったのはなぜでしょうか。

この五劫という長い年月は、救われる対象である我々衆生の迷いがまた無量であることを表わしていると私は受け取っています。『歎異抄』に次の言葉があります。

聖人のつねのおおせには、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。されば、そくばくの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」と御述懐そうらいしことを、(略)

親鸞聖人は、阿弥陀仏が五劫という長い時間をかけて衆生を救うための願と行を撰めとられたのは、ひとえにこの親鸞ただひとりのためであつたと受け取られたのです。

さらに『歎異抄』には、

されば、かたじけなく、わが御身にひきかけて、われらが、身の罪悪のふかきほどをもしらず、如来の御恩のたかきことをもしらずしてまよえるを、おもいしらせんがためにてそうらいけり。

「かたじけなく」とは、『歎異抄』の著者である弟子の唯円が、師匠である親鸞聖人のご述懐を自分のためにと受け取っておられ言葉です。

「自分はそのような事に気がつきませず、今まで我欲のままに過ごしてきました」とおっしゃっているのです。

そのように読ませてもらうことができたなら、「もったいない」という思いと共に私の心に信心の火がポツとつくまで五劫という長い間のお育てがあつたのかといただくばかりです。

【雜華雲】

最近読んだ本で心に残った文章を紹介したいと思います。

『「さととり」と「廻向」』、著者は京都大学の梶山雄一という先生です。

その冒頭で、
人間には、一度聞いたり読んだりした
だけなのに、一生のあいだ、ふとした
折によりみがえってくる言葉というも
のがある。そういう言葉をいくつか聞
いて、一生、それを反芻しながら死
んでゆく人の人生こそが、いちばん豊か
なものなのだろう、とこのごろ思う。
そして、

何か言ひ得て逝きしや人は
という滝沢亘の歌を引かれて、

「何か言ひ得」なくてもよい、とわた
くしは思う。「何か聞き得て」逝ける
ならば、それでよい、

と言われています。梶山雄一氏にとって
それはどういう言葉かといえ、大木惇
夫の次の詩です。

災いと幸とはかりて

差し引きは無しと答えむ
無しこそはいとも明るき

大慈悲のはじめに通え

というものです。私なりに訳して
みますと、

人生を振り返ってみて、自分にとって
悪い出来事と楽しく好ましい出来事
とを清算してみると、どんな人にも例
外なく答えはゼロ。どちらかが多くど
ちらかが少ないということはないの
である。だからこそ公明正大で平等な
人生はとても明るいのである。

仏の大慈悲はいったい誰の為に起こ
されたものなのか、よくよく考えてみ
るべきである。

この世で自分がしてきた事、経験した事
などはすべて与えられたものである。し
かし、そうはなかなか思えないから、不
平が出たりするのでしよう。

最後に梶山氏は、

わたくしの人生は、この詩の意味を実
感するために、ただそのためだけに尽
くされた、といつてよい。

で結ばれています。

【お彼岸のお知らせ】

三月二十日（水・祝）

春の彼岸会法要を勤修します
午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話 住職

四時 慈雲会総会

五時 お斎

【お磨きのお知らせ】

春の彼岸会に先立ち、仏具のお磨きを
します。皆様ふるって御参加下さい。

三月十五日（金）午前九時より

【慈雲会総会のお知らせ】

三月二十日（水・祝）彼岸法話終了後
議題

平成二十四年度 行事・事業報告

平成二十四年度 決算報告

平成二十五年度 事業計画説明

平成二十五年度 予算説明

その他

【編集後記】

早いもので三月となりましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

今年も慈雲を皆様にお届けできることを嬉しく思います。

昨年、皆様の御陰をもちまして、瑞蓮寺では親鸞聖人七百五十回御遠忌を行うことが出来ましたが、山城一組では今年御遠忌法要を行われる寺院が多数あるようです。

また、本山では教如上人四百回忌法要が行われます。

親鸞聖人、蓮如上人は皆様よくご存じと思いますが、教如上人：？という方もおられるのではないのでしょうか。

教如上人は十二代御門主で、真宗本廟（東本願寺）を創立された上人です。

御本山では、春の法要期間（四月一日～六日）に各種記念行事を予定されているようです。

また、山城一組の「教学講座」では教如上人を題材とした講義が行われます。私もこれを機会に教如上人について学びたいと思っております。

先日、昨年より受講していただきました推進員養成講座の前期講習が終了しました。

瑞蓮寺からも多数の方が推進員養成講座を受講されました。

講座のなかで、

南無阿弥陀仏

の六字の番号とられた仏様が私のもとにお越し下さり、

南無阿弥陀仏

の念仏となつて、私を迷いから覚まして下さると教わりましたが、正直なところ今は実感できていません。

これが腑に落ちるのはいつの事か判りませんが、これからも聞法を続けて行きたいと考えております。

本稿執筆時点で、寒い日や暖かい日の差が激しく、風邪を引いてしまいそうですが、慈雲が皆様のお手元に届くころには、暖かくなっていることを願っております。

住職・坊守・同朋と協力し、皆様に気軽に來て頂ける瑞蓮寺にしたいと思っておりますので、お彼岸・報恩講等の行事の際には、忌憚のないご意見をお聞かせ願います。お便りでのご意見・ご感想もお待ちしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

長塩浩史

【募 集】

慈雲も八年目となり、皆様に楽しんで読んで頂ける紙面作りを考えております。

多くの方々のご意見を頂戴し、よりよい物にしたいと思っておりますので、お便り、イラスト等、お気軽にお寄せ下さい。

また、慈雲の編集をお手伝い頂ける方を募集します。

一緒に瑞蓮寺に関わってみませんか。

お願い

平成二十五年度の年会費五千円よろしくお納めください。

皆様が運営する皆様のお寺を目指し、またお寺を通じて広く社会に貢献したいと存じます。

振り替え用紙を同封致しますが、既にお納め下さっている方はご容赦下さい。

瑞蓮寺のホームページができました。